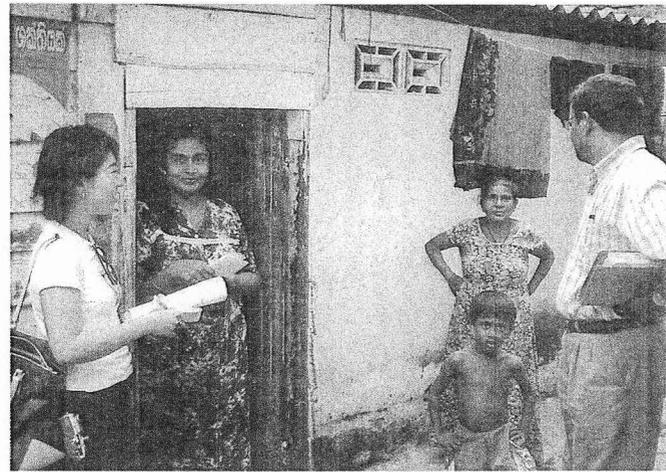


世界中どこでもネットで学べる通信制大学院

日本福祉大学大学院

Nihon Fukushi University
国際社会開発研究科(通信制)



フィールドワークでスリランカのスラムを調査

研究をきめ細かくサポート

日本福祉大学大学院国際社会開発研究科は、全国でも珍しい通信制の大学院。世界中どこにいても、学ぶことができる。「この研究科のねらいは、IT環境を最大限に利用しつつ、草の根の現場で human development に貢献する実践的な開発ワーカー」を育成することです」と話すのは穂坂光彦教授だ。

教育課程では、途上国と開発に関する共通の理解を育むための「開発基礎論」を必修科目として、マクロ経済からミクロ社会、現状分析から政策論にわたる開発分野を総合的に学んでいく。



国際社会開発研究科(居住福祉・都市計画)
穂坂 光彦 教授
Hosaka Mitsuhiko

通信制のため、学生には主体性が求められるが、大学院ではさまざまな形で学びを支援している。核となるのは、インターネットを活用した教育指導と学生相互の研究交流だ。講義科目では、テキストに基づいて学びを深めていくが、インターネットの掲示板に議論の場が用意され、学生の報告や質問に対してきめ細かい対応が行われている。修士論文指導も、所属ゼミの掲示板でやりとりができ、学生同士でもお互いの進捗状況を確認しながら、励まし合っているという。

「掲示板では、世界に散らばる学生相互の情報交換も活発で、世界中の開発現場での最新情報がリアルタイムに発信されています」と穂坂教授。世界中どこにいても参加できる通信制の研究科の強みが実践面でも活かされる。

さらに、こうした掲示板上での議論に加えて、インターネット電話討論、各地への訪問面談、対面型ゼミ指導の場なども拡充。名古屋キャンパスでの講義も部分的に開講し、「通信連学融合」型カリキュラムを試行している。

グローバルなネットワーク

在籍する学生は、アフリカ・アジア・中南米など世界各地で活躍する国連や国際協力機構の専門家・職員、コンサルタントや青年海外協力隊員、NGOスタッフなど、非常に多彩だ。実際、入学者の約4割が途上国に在住している。

教員には、国連やNGOなどで豊かな実務経験をもつ専門家が、マクロからミクロまで学際的な相互討論を深めつつ開発への関心を共有している。学生はそれぞれの対象地域の独自性・固有性と、普遍的・理論的な知の体系の両方を学び、各自の論文に生かすことができる。

さらに、インターネットによる指導や交流とあわせて、インド・フィリピン・フィリピンなどの提携を促進。現地の大

学教員による講義やフィールドワークを毎年開催し、発展途上国の状況について学びを深める場を提供している。

コースを進んで、学生たちは、専門分野、地域、年齢を越えたネットワークを形成しているという。「仕事や育児、家事介護など、社会人ゆえの勉学の困難もあるでしょう。くじけそうになった時、ここで得られたネットワークは、必ずモチベーション維持に役立ちますし、キャリア向上に結び付くこともあります」。

東日本大震災では、翌日から学生がネットワークを生かして被災地での救援活動を開始し、ネット上で安否確認や励まし合いが続いたという。「この研究科を通じて豊かなつながりを築き、逆境にある人々に寄り添うワーカーになってほしい」と穂坂教授は学生たちに期待する。

Point in Check!



学生たちはさまざまなフィールドで調査に取り組んでいる。写真は、定森さんのブラジルでの調査

理論と実践を結び付けたカリキュラム

「開発学」の枠組みを学ぶと同時に、開発現場の実態をどのように「あるべき姿」にするかに重点を置き、「理論」と「実践」を有機的に結び付けていく。

自主的フィールドワークを推奨

学生が一定の条件の下で自主的に実施したフィールドワークも、スクーリング科目に代わるものとして評価・認定。本学海外客員教授や海外のリソースパーソンの指導・助言も受けられる。

世界中で活躍する 友人先輩と議論



国際社会開発研究科2011年修了

横山 明子さん Yokoyama Akiko

私は現在(特活)AMDAで働いており、それ以前は、タンザニアのJICAマラリア対策プロジェクトに従事していました。タンザニアでの経験を活かして、大学院で学び直したいと考えました。

そこで、かつて学んだ経験もあり、充実したカリキュラムの存在を知っていたこと、仕事をしながら学べることから、日本福祉大学を選びました。

研究テーマは、東アフリカ諸国の障害者支援です。この研究科には「障害と開発」分野の経験や知識豊かな教員や学生が集まっており、専門的な議論ができます。研究科で得られた人とのつながりは一生の財産です。

今後はここで習得した知識やネットワークを、AMDAでの業務に生かしていきたいと思っています。

アマゾンでの活動を 改めて見直す



国際社会開発研究科2011年修了

定森 徹さん Sadamori Toru

私は現在、(特活)HANDSがアマゾン奥地で実施する熱帯果実やイモ、木材となる樹木と一緒に育てるアグロフォレストリーの導入プロジェクトに携っています。その中で、これまで十数年間の実地経験を見直したいと考え、現地にいながら通信制で学べる日本福祉大学で学ぶことにしました。

研究テーマは、実際に携わっているアマゾン西部でのアグロフォレストリー普及についてです。今後のプロジェクト活動を実施する上でも、貴重な示唆を得ることができました。

教授陣も学生も現場経験が長い人が大半で、さまざまな地域、分野での経験があるため、たくさん刺激が受けられます。互いに悩みも共有でき、修了後も仲間としてつながり続けています。

Access

名古屋キャンパス
〒460-0012
名古屋市中区千代田5-22-35
TEL 052-242-3050
FAX 052-242-3072
E-mail isdjin@ml.n.fukushi.ac.jp
URL http://development-school.jp/d_school/
交通 JR中央線錦糸町駅から徒歩2分
地下鉄有楽町線 錦糸町駅から徒歩2分

School Data

取得可能な学位: 修士(開発学)
定員: 25人
開講形態: 通信制
学費: 約71万円(初年費)
奨学金: あり

